## イオン液体ゲート絶縁膜を用いた a-InGaZnO 薄膜トランジスタの界面における結合状態の解析

Analysis of Interfacial Property in Oxide Thin Film Transistors with Ionic-liquid Gate Dielectric

O岡田広美<sup>1</sup>,藤井茉美<sup>1</sup>,石河泰明<sup>1</sup>,三輪一元<sup>2</sup>,小野新平<sup>2</sup>,浦岡行治<sup>1</sup>

(1. 奈良先端科学技術大学院大学, 2. 電力中央研究所)

°Hiromi Okada <sup>1</sup>, Mami N. Fujii <sup>1</sup>, Yasuaki Ishikawa <sup>1</sup>, Kazumoto Miwa <sup>2</sup>, Shimpei Ono <sup>2</sup>, Yukiharu Uraoka <sup>1</sup>

(1. Nara Institute of Science and Technology, 2. Central Research Institute of Electric Power Industry)

E-mail: okada.hiromi.oc1@ms.naist.jp

【はじめに】近年,透明酸化物半導体である a-InGaZnO (a-IGZO)を用いた薄膜トランジスタ (TFT)は,次世代のディスプレイ画素駆動用素子 として注目されている.この材料は,高移動度・室温で成膜可能・透明という特徴を有し,フレキシブルで透明なデバイスへの応用が期待されている¹. しかし,a-IGZO-TFT の安定動作のためには焼成 $^2$ や化学気相堆積法による $SiO_2$ ゲート絶縁膜(GI)形成等の高温プロセスが必要である.

これまでの研究で、イオン液体(IL) EMIM-TFSI(1-Ethyl-3-methylimidazolium bis (trifluoromethylsulfonyl)imide) を用いた a-IGZO-TFT が、低温で作製した GI であるにも かかわらず、低電圧駆動・低S値といった優れた TFT 特性を示すことがわかった 3. しかし,大気 暴露されたあと  $I_{ds}=5$   $\mu A$ , 55 時間程度のストレ スで $\triangle V_{th} = 0.75 \text{V}$  と、特性の劣化がみられた. 劣 化しないフレキシブル素子の実現には、この劣化 機構を知ることが重要である。IL は吸湿性があ る材料も多く知られており4, EMIM-TFSI は非水 溶性ではあるものの, わずかな吸湿により, IL/a-IGZO 界面に大気中の水由来の結合状態変化 が起きているのではないかと仮定し、調査した.

【実験】a-IGZO 膜を Si 基板上に堆積し、その膜上に IL を大気雰囲気下で滴下して  $N_2$ 循環雰囲気

下で2日間(48時間)放置した。その後、試料をアセトンで洗浄し、ILを除去したa-IGZO 膜表面の各元素の結合状態をX線光電子分光(XPS) により測定した。比較対象としてILを滴下せず同条件で洗浄したa-IGZO 膜を用いた。

【結果】In 3d, Ga 2p, Zn 2p ピークについては明確なピークの変化が見られなかったが, O 1s ピークについては, IL を滴下させた試料で高エネルギー側のピーク強度が明らかに大きくなっていた(図 1). ピーク分離したところ, M-OH 結合の割合が増加していることが確認された. IL に吸湿された水分によって IL/a-IGZO 界面状態が変化していることを裏付ける結果となった.

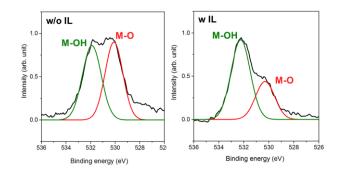


Fig. 1 XPS profiles of the O 1s peak at a-IGZO surface with and without IL.

## 【参考文献】

- <sup>1</sup>Kenji Nomura et al., Nature, **432**, 488, (2004).
- <sup>2</sup> Kenji Nomura et al., Appl. Phys. Lett., **95**, 013502, (2009).
- <sup>3</sup> Mami N. Fujii et al., Proc. ITC2015, p63 (2015)
- <sup>4</sup> C.Qian et al., Electroanalysis, 23, 2870, (2011).